

連研修了者研修会□1
阿弥陀さまと私□2
新・祖蹟点描□3
創刊100号記念特集□4
本山・教区・各組の動き□10
つれもて聴こら□12



2014年(平成26年)
4月1日
第100号

発行:「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL http://saginomori.or.jp/

創刊100号 記念特集面 4~9面

戦国時代、本願寺と織田信長が戦った大坂合戦で、鉄砲を駆使して目覚ましい活躍をした鈴木孫一(孫市)と雑賀衆を紀州のヒト

3月30日「孫市まつり」

講演会「雑賀衆と鷺森御坊」も



別院本堂バックに鉄砲演武

調査で新たに分かったことを紹介しながら、和歌山市和歌山城整備企画課の武内善信師らが話す。

前号でお伝えした「法統継承式」は、6月5日午後3時半から西本願寺御影堂で、西本願寺住職と宗派門主を退任されるご門主の御消息発布式。翌6日午前10時から阿弥陀堂と御影堂で、「法要」、続いて御影堂で「式典」が行われる。

法統継承式概要

江戸時代後期「鷺森御堂」に描かれた

継続的学びの場



新米門徒推進員さんが中央教修の体験報告

門徒推進員

門徒推進員とは、門徒の先頭に立ち、教区・組・教修(3泊4日)を経て、各組の連研修を修了、さらに西本願寺での中央

寺院と連携しながら、寺院・家庭・職場・地域などの日常生活に根差した場で「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を推進する方。

和歌山教区連研修了者研修会が3月2日、「組連研修了して…」をテーマに鷺森別院で開かれ、門徒推進員17人を含む40人が参加。教区内各組では、各寺院

所属の門信徒を対象に、門徒推進員養成のための「連続研修会」(連研)を開いていますが、このたびの研修会は、各組の連研修了者を

対象に、意見交換と学びの場を提供しようと年に一度開かれているもの。

参加者は8人ごとに分かれ「組連研修了して…」のテーマに沿って1時間の話し合いを行い、班ごとにその内容を発表した。

鷺森別院で連研修了者が研修

続いて、2013年度に新しく門徒推進員になった池上徳松さん(御坊組・常福寺)と新井和美さん(和歌山西組・正善寺)が、本山で中央教修を受けた体験と現在の門徒推進員としての活動を報告。

最後は連研中央講師の小滝信生師がまとめの講義と質疑応答を行った。

阿弥陀さま

ハウツー仏事

と 私

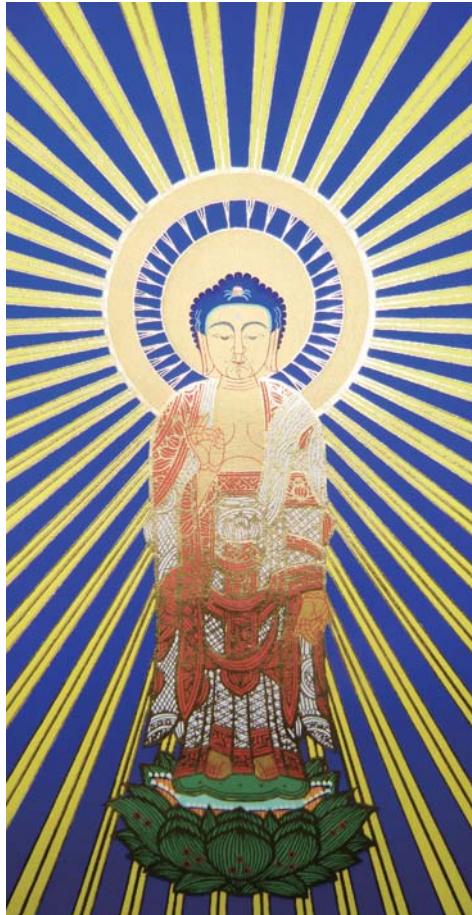
お仮壇にご安置するご本尊の形としては、絵像、名

町版はほとんどが印刷された物ですが、正式なご本尊は、京都西本願寺の近く

伝統技術の結晶



ご本尊の裏書と証印



伝統技法によって細部まで手作りされた正式なご本尊

なご本尊である証として、本願寺の歴代ご門主のお名前と証印が押されています。現在は第24代即如門主の証印が押されていますが、山正式のご本尊とは何が違うのでしょうか。

6月6日、本願寺では37年ぶりの「お代替わり」である「法統継承式」が行われます。このため返品はできませんので、本山からお受けする際は、大きさなどを十分に確認しましょう。

結果的に費用は比較的高額になりますが、正式のご本尊には、それに替えられない価値があることは、ご理解いただけたと思います。

お寺にご相談を

すので、その日以降は、第25代専如門主の証印が押されることになります。

ご本尊は免物

ご本尊の大きさは30代、50代、70代など「代」で数えますが、数字が大きいほど、お軸も大きくなります。お軸の表装には、金襴、桐、藤、松という4種類があり、好みの物を選ぶこともできます。

お申し込みは、西本願寺の参拝教化部・免物係へ直接向かっても結構ですが、所属寺院を通して「在家免物申込み」の手続きをされれば、事務手続きも簡単です。お手次ぎのお寺までご相談ください。

ともい、お受けするためのお金を「冥加金」といいますが、つまり、一般の商品のような物品販売ではないということです。このため返品はできませんので、本山からお受けする際は、大きさなどを十分に確認しましょう。

お仮壇購入時に正式なご本尊をお迎えするのが一番ですが、「お洗濯」と言われるお仮壇の解体修理のときも、いい機会です。



ご本尊を中心としたお飾り

号（南無阿弥陀仏）、木像がありますが、一般的のご家庭に最もふさわしいのは「絵像」でしょう。しかも、仏壇店で販売している、いわゆる「町版」といわれる

ご本尊ではなく、本山西本

裏には本物の印

そのすべての工程が絵師

また、お軸の裏には正式なご本尊のことを「免物」

（松本教智・「御同朋の社会をめぐらす運動」和歌山教区委員長）



階段を上り日野誕生院へ

新 祖蹟点描

2 日野誕生院

平安初期の建築様式を用いた別堂

到來という意識はい
やが上にも強まつた。

1053年に藤原
頼通が宇治に平等院
阿弥陀堂(鳳凰堂)

を建立し、親鸞聖人
の出自であるといふ

日野家でも同じころ
に法界寺を建てて淨
土往生を願つたのも、

一つには末法意識の
世は末法であるといふ。
現代のことではない。親鸞
聖人がご誕生された時代の
ことである。

お祈迦さまの入滅を紀元
前949年とする中国の考
え方に基づき、仏法と行ど
さとりが円満した「正法」
の時代1000年と、仏法
とこれを行ずる人はあつて
も、さとりに至る人のない
「像法」の時代1000年
が終わり、1052年(永
承7)には、仏法だけが残
り、これを行ずる人もさと
りに至る人もない末法の世
が到来すると考えられた。

戦乱が続発したため、末法
実際、この頃から災害や

親鸞聖人の産湯に使わ
れた井戸(左)と胞衣塚(下)



ひの たんじょう いん 日野誕生院

場所 京都市伏見区日野西大道町19
電話 075(575)2258
京都駅からJR奈良線で約20分、
「六地蔵」駅下車、同駅から京阪
バス「日野誕生院」行で16分、
「日野誕生院」下車すぐ。

文政年間建立の有範堂がルーツ

親鸞聖人ご誕生の地

代だったのである。

さて、前回訪れた法界寺
をあとにして、その東隣に
ある日野誕生院に足を向け

お祝いして「宗祖降誕会」
を勤めているが、これは旧
暦4月1日を新暦に直した
もの。4月1日説に確かに
根拠はないものの、171
7年(享保2)に真宗高田
派の良空師によつて刊行さ
れた『親鸞聖人正統伝』が

親鸞聖人のご誕生を「四月
朔日」(朔日は一日)とし、
これが広く読まれたため定
着したのだといふ。

日野誕生院のルーツは、

1828年(文政11)9月、
本願寺第20代法主如上人のと
きにこの地に建てられた堂
宇にさかのぼる。このお堂



表れだつたといふ。
親鸞聖人がご誕生された



え方に基づき、仏法と行ど
さとりが円満した「正法」
の時代1000年と、仏法
とこれを行ずる人はあつて
も、さとりに至る人のない
「像法」の時代1000年
が終わり、1052年(永
承7)には、仏法だけが残
り、これを行ずる人もさと
りに至る人もない末法の世
が到来すると考えられた。

親鸞聖人がご誕生された

代だったのである。

さて、前回訪れた法界寺
をあとにして、その東隣に
ある日野誕生院に足を向け

境内には、親鸞聖人の産
湯に使われた井戸と、胞衣
(胎盤やへその緒)を納め
た「胞衣塚」もある。

毎年5月19日午後2時か
らは、親鸞聖人の「誕生会」
がご門主ご親修で勤められ
ている。どうぞお参りを。

(本紙編集部)

は、親鸞聖人の父・有範公
にちなんでも有範堂とも、ま
た宝物堂とも呼ばれた。別
堂は、1931年(昭和6)
に完成したもの。平安時代
初期の建築様式にのつとり、
堂の前庭には三方に回廊を
めぐらし、中央には金灯籠
を据えるという珍しい形式。
堂内には、ご本尊阿弥陀
聖人、左側に前門さま(勝
如上人)の御影(絵像)が
掛けられ、向かって左側の
余間に有範公の木像が安
置されている。

このお堂を本堂ではなく
別堂と呼ぶのは、ここが西
本願寺の飛地境内地だから。
本堂は西本願寺にあるとい
うわけである。

境内には、親鸞聖人の産
湯に使われた井戸と、胞衣
(胎盤やへその緒)を納め
た「胞衣塚」もある。

和歌山教区と鷺森別院 あのとき

当時の記事、見出し、写真で振り返る

本紙が歩んだ 100号41年

1973年(昭和48)7月1日に産声を上げた本紙は、創刊以来足かけ41年、今号で100号発刊の日を迎えた。これまでの歩みを本紙が伝えたニュースで振り返る。

創刊は宗門の大法要を機に

本紙の創刊は、西本願寺で3月17日から3期20日間にわたり盛大に勤められた「親鸞聖人御誕生800年・立教開宗750年慶讃法要」が、5月21日に円成したばかりのことだった。

その法要のご満座の御消息で大谷光照門主(当時)が示された「このたびの勝縁を機として、大いなる決

意をもって宗門の再出發に踏み出し、社会の期待に答えてなりません」とのお言葉に応えるように、

創刊号卷頭ページには、3踏み出し、社会の期待に答へなくてはなりません」と師が言葉を寄せている。

当時の和歌山教区教務所長・中岡順孝師は、「世紀

の勝縁にめぐりあえた幸いをよろこびつつ、いよいよ八〇一年、七五一年の意義をたしかめあい、とともに教法社会の生成を期する時がまいりました。情報産業がめざましく発達しつつある現情勢下にあって、かねてよりの懸案であった『教区報』を有縁の方々のご助力により御誕生法要を機会に、発刊のはこびとなりましたことは意義深いこと」と喜びをつづっている。

本紙創刊号卷頭ページ



教区報に発刊してよ



- 1973(昭和48)
7・1 和歌山教区報第1号発行
- 1975(昭和50)
7・5 第8号より「紀州御旧跡めぐり」連載開始(第13号まで6回)
- 1977(昭和52)
2・10 第14号より「紀州の御法物」連載開始(第16号まで3回)
- 4・1 法統繼承式(西本願寺)
- 5・7 和歌山教区仏教社年会連盟結成大会
- 1978(昭和53)
4・22、23 親鸞聖人七百回大遠忌・御誕生八百年・立教開宗七百五十年慶讃法要(鷺森別院)

鷺森別院三法要でにぎわう

—1978年(昭和53)4月22、23日



御導師をされる前門さま

鷺森別院
世紀の大法要
(親鸞聖人七百回大遠忌法要・親鸞聖人御誕生八百年立教開宗七百五

十年)は、陽春四月二十二日、二十三日の両日にわたり盛大に厳修された。

好天に恵まれた当日、境内は大テントが張られ、本堂は五色のどんちょうに飾られ、二本の吹き流しで法要

要氣分も、最高に盛り上がった。

和歌山組、西・北・海草組の善勇善女でたちまちの中に満堂となり、境内はお稚児の参列者、帰敬式受式者で大きな列をつくつてい

る。 雅楽の中を別院輪番、参勤、承仕、列衆、結衆が着座、前門様が祖師前で焼香、登礼盤なされ、表白、画讚、正信偈がおごそかに満堂にひびきわたり、参拝者もともども唱和して法要も最高

の雰囲気となる。 午後の逮夜法要には庭儀があり、境内はお稚児、祚、昵近、樂人、列衆、結衆が参列、鷺森町内を一周。沿道は人垣で賑わった。

午後も大勢の帰敬式受式者が集まり、幼稚園舎と本堂の二会場に別れて行なわれた。

その後前門さまは境内山門横に記念植樹(ウバメカシ)を行なわれ、第一日の法要を無事終えられ帰京された。(第19号から)

1979(昭和54)

西本願寺本堂(阿弥陀堂)昭和の大修復始まる

1980(昭和55)

伝統奉告法要(西本願寺)～10・6まで

5・25 和歌山教区少年連盟結成

1984(昭和59)

本願寺本堂昭和修復に際しての消息披露(鷺森別院)

1985(昭和60)

少年連盟結成5周年大会

1986(昭和61)

阿弥陀堂昭和修復完成慶讃法要(西本願寺)～5・31

5・22 初参式についての消息発布

9・12 臨時教区会において基幹運動の区令可決

1987(昭和62)

寺族青年連盟結成(和歌山教区)

2・13 頤如宗主四百回忌法要・本願寺寺基京都移転四百年

11・28 鶯森別院顕如上人四百回忌法要実行委員会発足

1988(昭和63)

法要の消息披露(鷺森別院)

1989(平成1)

11・23 即如門主、本願寺鷺森別院に対する消息発布

10・23 ご消息披露の式

1990(平成2)

4・21、22 頤如上人四百回忌・紀州門徒殉難者総追悼法要

11・21 日高別院太鼓楼修復落慶法要

1991(平成3)

4・4 頤如上人四百回忌法要・本願寺寺基移転四百年法要

始まる(西本願寺)～5・29

1992(平成4)

1・16 蓮如上人五百回遠忌法要についての消息発布

和歌山教区全戦没者50年追悼法要

—1994年(平成6)7月8日



昭和二十年
七月九日は、

「和歌山大空襲」の日。死者千百人、傷者四千四百

三十八人にのぼったと記録されているこの日を記念して、前日に当たる7月8日、「和歌山教区全戦没者50年追悼法要」が厳粛なうちに掌まれた。

この日、和歌山市民会館大ホールは千四百人の参拝者で埋め尽くされ、午後一時、喚鐘が鳴り響く中、教区内の法事が入堂。莊厳な雅樂が流れる中、法事が始まった。

お勤めの前に、遺族を代表して中谷君子さんが「追

顯如上人400回忌・ 紀州門徒殉難者総追悼法要

—1990年(平成2)4月21、22日

去る四月二、さまのご親修で、午前の部・本堂内は参拝者で両日とも両日にわたり、午後の部と四座の法要に、埋めつくされた。

鷺森別院で、顯如上人四百回忌法要・紀州門徒殉難者総追悼法事が盛大に勤修された。時おりの小雨にもかかわらず、二十一日はご門主さま、二十二日には前門



まは戦乱の世であらゆる困難にたち向かい、お法りを護り伝えられた顯如上人の生涯、石山合戦で身命をかえりみず本願寺を守った紀州門徒のご苦労をたえと、列衆、結衆に引き続き、藤下輪番が入堂。奏楽人による雅樂が奏される中、僧綱の伊井智昭総務を伴って、ご門主さまがご入堂。本堂内は静寂な雰囲気になりました。

登礼盤ののち、ご門主さんは戦乱の世であらゆる困難に立ち向かい、お法りを護り伝えられた顯如上人の生涯、石山合戦で身命をかえりみず本願寺を守った紀州門徒のご苦労をたえと、列衆、結衆に引き続き、藤下輪番が入堂。奏楽人による雅樂が奏される中、僧綱の伊井智昭総務を伴って、ご門主さまがご入堂。本堂内は静寂な雰囲気になりました。

(第45号から)

その後「正信念仏偈」を全員で唱和、本堂内にお念佛の声が響きわたった。

包まれた。

1・1 第99号から「阿弥陀さまと私」「新・祖蹟点描」連載開始。	12・19 「専門部会設置に関する内規」制定	5・8 「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会設置規則制定	1・9～16 大遠忌法要御正當	2012(平成24)	3・4 親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受け近畿大会	10・7 親鸞聖人七百五十回大遠忌安穩灯火リレー	11・24～28 鷺森別院親鸞聖人七百五十回大遠忌法要	2011(平成23)	3・4 親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受け近畿大会	10・7 親鸞聖人七百五十回大遠忌安穩灯火リレー	11・24～28 鷺森別院親鸞聖人七百五十回大遠忌法要	2010(平成22)	3・4 親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受け近畿大会	10・7 新門さま、和歌山教区巡回・鷺森別院巡回	6・29 新門さま、和歌山教区巡回・鷺森別院巡回
----------------------------------	------------------------	----------------------------------	-----------------	------------	---------------------------	--------------------------	-----------------------------	------------	---------------------------	--------------------------	-----------------------------	------------	---------------------------	--------------------------	--------------------------

蓮如上人五百回遠忌法要 · 再建十周年慶讚法要



ひ、また、紀
についての歴
がら、別院再
え、あらため
機能をより一
の教化セン
とを願つて、
。 。

親鸞聖人750回大遠忌法要



境内は賑わった。
このたびの法要では大遠
修会もあわせて開催され
るために新たに定められ
「宗祖讚仰作法第一種・
二種」によつてお勤めが
行われた。「第三種」の音
法要は、雅楽・コーラス
レクチーンが美しく調和
した莊厳なお勤めが特
徴的。参拝者の多くが
「感動的でした」「心
に響くすばらしい法要
でした」とこの法要に
出会えたことを喜んで
いた。

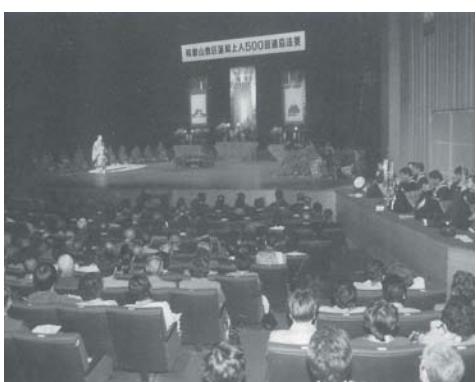
同朋運動 50 周年法要嘗む



活動を機縁として、部落差別の解決、人権の確立のため、一層積極的に同朋運動推進に取り組む決意を新たにしたい」と述べた。

吉サは感説しつゝ「△後宗門人一人ひとりが、私と教団の差別の現実を改め、部落差別をはじめとするあらゆる差別の撤廃に取り組み、眞の同朋教団の確立をめざすことが、二十一世紀を迎えるとする私たちの責務」と刀爾諦存基委副会長が「決意表明」を読み上げ、参挙者一同、今後の同盟運動への取り組みを決意し、幕を閉じた。

「蓮如上人500回遠忌法要」勤まる



十林順正教務所長が登壇を行い、参拝した千六百の声が一つとなつて「奉讀蓮如上人作法」が勤められた。続いて、「聖人一流の章」の御文章拝読が行われ、参拝者らは頭を下げて聴聞した。

この後、中央仏教学院講師の清岡隆文氏が「あながちこ、あながしこ」と題して記念法話。（中略）

催。今日の社会を取り巻くさまざまの問題について、おもしろおかしく語る落語家・月亭八方さんの漫談「こころの時代」、落語家の桂都丸さんは、蓮如上人の逸話をもとにした「嫁おどし」を披露、そして新屋英子さんによる一人芝居「わたしの蓮如さん」を上演。上人のご生涯を一時間半にわたって熱演、参拝者らは熱心に見入っていた。

本堂再建 紀州門徒、喜びの春



した鷺森別院（藤下恒庸輪番）では、今月八・九の二日間、ご門主親修で「本堂落成慶賀法

雨。しかし境内の桜も満開に咲きほころぶ中、両日で三座の法要が営まれ、教区内の住職の言葉達に、
そこで参拝者全員が、「王主はこれまでの別院の沿革をおりこんだ「表白」を読み上げた。

教区報が100号を迎えるので、発刊当時のことを書くようにとの依頼がありましたがので、昔のことを思い出しながら記してみました。40年も前のことなので

県庁に勤めており、教団や教区のことには無関心で、別院がどつちをむいているかしらないような状態でした。ある日、滋賀の中岡順孝さんから電話があり、今

教区と寺院のパイプ役

元編集委員 藤範 信彦

高齢になつた今、その当時のことは記憶にないことも多いと思います。

度、鷲森別院の輪番にきたので顔を出してほしいとのこと、中岡さんは龍大生



のとき、龍谷新聞部で御かりました。(昭和47年頃だと思います。)1面に中岡長の藤範亮誠さん(伊那組教楽寺住職)、教区教化推進協議会(教推協)会長の浜口大聲さん(有田南組安樂寺住職)に「教区報発刊によせて」を執筆してもらい、主に教推協の各部会の活動状況等を記事にしました。

ところが、第2号に中岡輪番の離任の挨拶を載せる

り、第1号の発刊にとりかかりました。1年にも満たない異動には驚きました。県庁では考えられないことなので、本山に抗議をと騒ぎましたが、本人は「絶対に何もしないでくれ」とかたく止められましたが、現在でも本山の人事のアップダウンが続いているように思われます。

乗りかけた舟なので、これまで止めるわけにもいかず、それからは原稿集めから大組、校正と走りまわります。教区報は教務所(別院)と一般寺院とのパイプをたくする役割をもっています。関係各位の御努力に敬意を表します。

(伊那組光円寺住職)

100号を支えた編集者

紙面に出なかつた裏面史

「この100号特集号を発行するにあたって、創刊号の編集に携わった初代編集者と現在の編集員に編集の苦労やこれまで紙面に出なかつた〈裏面史〉を綴つて頂きました。

この度、教区報「さぎのもり」の100号の発行の運びとなりましたこと、誠におめでとうございます。

今後、益々のご発展をお感じ申しあげます。

さて、当時を顧みますと、はや4半世紀が経ちました。

以前の鷲森別院の一室をお借りして編集委員会を何回も開いたことを思い出しま

元編集委員 中谷 真澄



す。編集委員長を中心に数名の編集委員で構成されスタートしました。

佛法ひろまれをモットーに

ようなきまりを決めました。目的は、和歌山教区の活動の記録であり、また、仏法

が目的で、そのため教区内

ことになりました。年間4回、季節毎に発行すること、サイズはB5版で、読み易くするため、写真を挿入することになりました。

当時は編集委員が中心となり撮影し、また、寺院の住職方にお願いしてご協力頂きました。当時の写真は、主流は白黒写真でした。

こうして1号の発行がで

時には、ティータイムも広まれをモットーに、教区の寺院にお知らせをし、多くの方に参拝して頂くこと

1号作成にあたり、次の

（和歌山西組正立寺住職）

このたび、教区報「さぎ」が節目となる第100号発刊の運びとなり、編集を担当している伝道広報部において、第一号から第99号の中で掲載された主な教区・聴教別院の歩みを振り返り過去に学ぼうといふ事になりました。

このたび、教区報は今から41年前の昭和48年に第1号が発刊されました。それは現在の即如門主さまが勝如前門主さまより法統を継承された時期であり、今の宗門の状況と重なり、時代の移り変わりを実感すると同時に、また当時の宗門・教

代に取材で鷹森別院

区を取り巻く情勢と取り組みに大変に興味が湧きました。各号を読み進めて参りますと、現在推進されている「宗門長期振興計画」に

ある人材の育成や寺院の活性化という課題も、時代に相応した新しい取り組みの

ように見えますが、実は40年前も課題とされていたことをばかりであると知らされます。

今、私に、750年の歳月を超えて親鸞聖人の声が届いているのは、そのご尽

つ歩ませていただき中で、先達の残してくださった道の力のおかげであり、その一つが、阿弥陀さまの絶え間ないおはたらきのもと、

和歌山教区教務所長 高橋 格昭

先人の歩み知る貴重な資料



2003(平成15)年10月1日号「70号」から教区報の編集委員を務めている。その11年間のこととは、後で記すことにしたい。

どうのも、「和歌山教区報」とのご縁は、第42号に遡る。

この教区報の編集に携わるようになつたのかというと、私が本願寺新報の記者時代に取材で鷹森別院

編集委員 藤本 恵英

に行つたとき、当時の職員(おそらく藤下先生ではなかつたか、もしくはお淨土に帰られた板原さん)から、教区報の編集を依頼されたことは、後で記すことにしておきたい。

レイアウトを担当したのである。当初は別院に取材で来たときに、編集作業をしに帰られた板原さんから、教区報の編集を依頼された

だけが、いつしか、原稿がたいたことがある。それは「教区報」は「官報」か、それとも「教化紙」か。このことは編集会議で数限りなく議論してきたことである。そのときに話題に上がったのは大阪教区の「御堂さん」であった。当時他教区から発行されているものでは、画期的な紙面作りが話題となっていた。その紙

面に感化されて「和歌山教区報も門徒にも読んでもらえる法味豊かな紙面内容にすべき」「今まで通り、教区内の出来事を知らせるだけいい」。さまざま意見が出されたが、なかなか「官報」色から抜け出せなかつたことを覚えている。

しかし、ここ数年の紙面を見ると、もちろん官

京都まで送られてきて、それをページ割り、見出しをつけレイアウトをして別院に送り返すといふまさにアナログな編集をしてきた。それは昭和63年からのこと

決してありません。どの時代にあっても、その課題は決して消えることはなく、人を変え・場所を変えて、多くの先人たちがその問題と向き合い、その時と場に応じた活動が展開されてきました。

今、私に、750年の歳月を超えて親鸞聖人の声が届いているのは、そのご尽つ歩ませていただき中で、先達の残してくださった道の力のおかげであり、その一つが、阿弥陀さまの絶え間ないおはたらきのもと、

のがその始まり。

当時は職員が取材し書き上げられた原稿に目を通し文書を校正、見出しをつけ、一つの紙面として組み立てていく、という紙面の

区を取り巻く情勢と取り組みに大変に興味が湧きました。各号を読み進めて参りますと、現在推進されている「宗門長期振興計画」に

ある人材の育成や寺院の活性化という課題も、時代に相応した新しい取り組みの

ように見えますが、実は40年前も課題とされていたことをばかりであると知らされます。

今、私に、750年の歳月を超えて親鸞聖人の声が届いているのは、そのご尽つ歩ませていただき中で、先達の残してくださった道の力のおかげであり、その一つが、阿弥陀さまの絶え間ないおはたらきのもと、

(伊那組極楽寺住職)

青色青光

ご参加ください

本山

4月14日 仏教婦人会連盟	5月24日 保育連盟補任式
委員会(鷺森別院)	進協議会総会(本願寺)
4月17日 寺族婦人会連盟	4月13日 近畿同朋運動推
委員会(鷺森別院)	(西本願寺)
4月19日 仏教婦人会連盟	5月24日 過去帳について学ぶ
盟總会(西本願寺)	■常例法座
4月23日 少年連盟総会	4月20日、岩本智依師
(鷺森別院)	(奈良市杏町・常蓮寺)。
4月26日 恵信尼さまの集	午後1時30分から3時。
い(西本願寺聞法会館)	■降誕会・花まつり・湯
4月末定 ピハーラ和歌山	5月11日、午後1時から
委員会	お勤めに引き続き、御坊幼
4月末定 門徒総代会委	時まで。
員会	
5月20、21日 宗祖降誕会	6月20日、午後1時30分
6月5日 御消息発布式	から本堂で仏説阿弥陀経を
6月6日 法統繼承式	お勤めし、黒田哲夫師(桑
6月8~11日 大谷本廟納骨・永代経法要	名市・教専寺)が法話。3
5月9日 仏教婦人会連盟	時まで。
5月13日 清掃奉仕(鷺森別院)	
5月13日 仏教壮年会連盟	
5月14日 総会(鷺森別院)	
5月14日 寺族婦人会連盟	
5月15日 門徒総代会総会	
(鷺森別院)	
5月16日 仏教婦人会連盟	
総会(鷺森別院)	
4月10日 近畿同朋運動	
推進協議会常任委員会(大阪)	
鷺森別院で2月18、19日、滋賀、京都、奈良、大阪、兵庫、和歌山の各教区から参加した81人の青年布教使が、「親鸞さまの魅力を現代に!」をテーマに1泊2日の研修を行った。	

和歌山教区



本堂で公開布教大会も

鷺森別院で6教区の 青年布教使が研修会



教区内の僧侶らが熱心に研修

4~6月の催し

4月10日 近畿同朋運動

推進協議会常任委員会(大阪)

阪)

鷺森別院で2月18、19日、滋賀、京都、奈良、大阪、兵庫、和歌山の各教区から参加した81人の青年布教使が、「親鸞さまの魅力を現代に!」をテーマに1泊2日の研修を行った。

2日目は天岸淨円師(布教団連合総团长補佐)の講義を聴き、研鑽を深めた。

「葬儀で正信念仏偈をお勤めするのは、往相回向だけではなく還相回向が説かれているから。あなた自身が

勤めるのは、往相回向だけではなく還相回向が説かれているから。あなた自身が

次ページに続く

僧侶研修会で葬儀と 過去帳について学ぶ

人としてお別れし、仏さまをして還つてくる。そこに人生を本当に納得している世界がある」と語った。後半は「過去帳またはこれに類する帳簿の開示問題」について、岩本孝樹師(元安芸教区過去帳問題対応委員)が話した。

岩本師は、一昨年5月7日に放送されたNHKのテレビ番組「鶴瓶の家族に乾杯」で、出演者がルーツ探しのため安芸教区のある寺院を訪れた際、対応した住職と坊守が「門徒明細簿」と「門徒戸数控」を「過去帳」と言って開示した問題の経緯を説明。

前半の葬送儀礼についての講義では、今小路覺真師(前本願寺会行事)が、施主の立場になって葬儀を見つめることの大切さを強調。「葬儀不要論の多くはお金がかかるから。一番かかるのは葬儀壇。本堂の内陣を使つて葬儀をすれば、新たに葬儀壇は要らない。ご門徒に勧められるのでは」

過去帳とこれに類する帳簿は閲覧禁止とし、ご門徒からの照会に対しては、直接ご先祖に関する部分だけを抜き書きすること、過去帳の記載事項を①法名②俗名③死亡年月日④性別⑤年齢⑥施主との続柄⑦施主の現住所に限定するという宗派の規定を確認した。



つれもて 聴こへらう

つの声に導かれて、旅人は
その白い道を無事に渡りき
り西岸にたどり着きました。

これは善導大師の「二河
白道の例え(二河譬)」です。
私の師はこの例えは「他力
道が対岸に向かって続いて
いますが、15歩程の幅しか
なく、激しい波と猛炎でと
ても渡れそうにありません。
そんな旅人を見つけ群賊・
悪黙が襲ってきます。退く
も死、進むも死、とどまる
も死という状況におかれたら
河が行く手をきえぎります。

二つの河に挟まれて、白い
道もまた百歩である」とあ
る旅人が広野を西に向
かい旅をしていると、荒れ
狂う水の河、燃え盛る火の
河が行く手をきえぎります。

道が対岸に向かって続いて
いますが、15歩程の幅しか
なく、激しい波と猛炎でと
ても渡れそうにありません。
そんな旅人を見つけ群賊・
悪黙が襲ってきます。退く
も死、進むも死、とどまる
も死という状況におかれたら
河が行く手をきえぎります。

ただ、話が「二河譬」だと
言えるのです。
たゞく話が「二河譬」だと
言えば、淨土参り
の道が壊れない事を教えて
くださっているのです。
また、旅人が、その境遇
から、自らの勢いで白道を
歩みだそうとする場面があ
りますが、これは自力心を
表しています。

今後、私の人生がどのよ
うに展開されたとしても、
迷うことのない阿弥陀さま
がご用意くださったお淨土
への道中であります。

「水・火の河に落ちること
を恐れる必要はない。落ち
ないようにしっかりとあなた
をお守り(摂取)しましょ
う」という声です。「二河譬」
の絵は、光明を放つて行者
を包んでいます。

河が行く手をきえぎります。
二つの河に挟まれて、白い
道が対岸に向かって続いて
いますが、15歩程の幅しか
なく、激しい波と猛炎でと
ても渡れそうにありません。
そんな旅人を見つけ群賊・
悪黙が襲ってきます。退く
も死、進むも死、とどまる
も死という状況におかれたら
河が行く手をきえぎります。

人生はお淨土への道中

旅人は、意を決してこの細い道を歩み出そうとします。

すると東の岸から「この道を行け」という声が、同時に西の岸から「この道を来い」という呼び声が聞こえています。その二

人、親鸞聖人は、この百歩

を「人寿百才」と解釈されました。つまり人間の寿命であり、私のこの命が尽きるまで、ずっと激しい波と

猛炎に例えられた河に囮まれた煩惱の日暮らしである

ということなのです。

調龍叡和上は「無常と宿業と恩愛として恐ろしき罪業というものが我々を娑婆世界にくくりつけている」とおっしゃっています。その二

人、阿弥陀さまから真実信心をいただいて、浄土に参らせていました。金剛心とは、壞れない心であり、壞れないとは、眞実ということ、眞実とは、仏さまからの廻向

であります。本来、眞実を持ち合わせない私が、阿弥陀さまから真実信心をいたしました。金剛心とは、壞れな

い心であり、壞れないとは、眞実ということ、眞実とは、仏さまからの廻向であります。

福永充証師(西都市下三財・光善寺)の法話。この期間は各教化団体の集いが開催される。(13日仏教壮大年会連盟、14日寺族婦人会連盟、15日門徒総代会、16日仏教婦人会連盟)

鷲森別院の催し

■二尊会

5月13日から16日、鷲森

別院で二尊像御影が奉懸さ

れ勤められる。午後1時30分からお勤め、引き続き、

福永充証師(西都市下三財・光善寺)の法話。この期間は各教化団体の集いが開催される。(13日仏教壮大年会連

盟、14日寺族婦人会連盟、15日門徒総代会、16日仏教婦人会連盟)

午前10時より本堂にてお勤め、引き続き鷲森別院輪番

の法話。その後、鷲森幼稚園園児やコーラスグループが仏教讃歌等を唱和。

(宍粟市山崎町・西願寺)
△鷲森別院常例法座から

たゞく話が「二河譬」だと
言えば、淨土参りの道が壊れない事を教えてくださっているのです。
また、旅人が、その境遇から、自らの勢いで白道を歩みだそうとする場面があ

りますが、これは自力心を表しています。

今後、私の人生がどのよう

に展開されたとしても、迷うことのない阿弥陀さまがご用意くださったお淨土への道中であります。

■降誕会

5月20日、親鸞聖人の誕

尊会)